

会議速報

平成 27 年 8 月 18 日ホームページ掲載

開催概要

- 名 称：平成 27 年度 第 1 回新潟市食育推進会議
- 日 時：平成 27 年 8 月 11（火）午後 2 時～午後 4 時
- 場 所：食育・花育センター2階 講座室 A
- 出席委員：安中委員、五十嵐委員、井上委員、岡崎委員、田中委員、牧野委員、南委員、村山委員、諸橋委員、横田委員、輪倉委員、渡辺委員
(欠席：石原委員、小柴委員、小山委員、須田委員、立山委員、藤田委員、二木委員、山下委員)
- 事務局：大竹食育・花育センター所長、黒崎食育係長（司会）、和田主査、小林栄養士
- 関係課：瀬野保育課長補佐、笹谷保健所健康増進課健康づくり推進室主査、廣川保健所食の安全推進課管理係長、梅沢農業政策課生産政策係主幹、長澤食と花の推進課係長、多賀保健給食課長補佐、星野保健給食課給食係長

概要

1 新潟市食育推進計画の進捗状況について

【資料 1-1】【資料 1-2】

（事務局説明）

- ・ 資料を基に、新潟市食育推進計画の進捗状況について説明。

（主なご意見等）

- ・ 早寝・早起き・朝ごはんの取組がされているが、20 歳代・30 歳代向けにはどのような取組をしているか。
- ・ マスコミが朝食を食べないほうが良いという情報を流したりしているが、その影響はあるか。
- ・ 5 年ほど前から 20 歳代・30 歳代の方を受け入れ、農業や調理の体験を提供している。市の取組も進んでいると感じるが、子どもだけではなく、若い方も参加できるよう、特にアグリパークの畑や加工施設を活用した取組を実施してほしい。
- ・ 大学生の中にも食についての関心が高い者は多い。大学との連携はまだ取組が少ないが、その連携は課題解決のための切り口の 1 つと考えられる。
- ・ 新潟県立大学では 100 円朝食を開始した。
- ・ 新潟市は食育に熱心に取り組んでいると感じている。関係者にも敬意を表したい。
- ・ 普及・啓発から実践へという流れだが、やはり実践されてこそ成果とも言えるので、それを促す取り組みに力を入れてほしい。
- ・ 食育の推進が目的ではなく、推進した先にあるものが目的であるとすれば、産業側からは経済的な効果があったか、というあたりも評価の対象としてほしい。

- ・ 新潟市内だけではなく、県・全国へと発信していく、それぐらいの規模感で取り組んでほしい。
- ・ 周知は市民に向けて行うことも大切だが、大学や学会などを切り口として、全国に広げていくぐらいでよい。
- ・ 市内の地域ごとの差や、それを裏付けるデータはあるか。
- ・ 今後の取組の検討にあたっては、地域特性も視野に入れてほしい。

2 第3次新潟市食育推進計画の策定について

【資料 2-1】【資料 2-2】【資料 2-3】【資料 2-4】【資料 2-5】【資料 2-6】

(事務局説明)

- ・ 資料を基に、第3次新潟市食育推進計画の策定に関連する、第3次食育推進基本計画の検討状況について説明。

(主なご意見等)

- ・ 次期計画の計画期間は何年度から何年度までか。
- ・ 新潟県の減塩推進の取組の中で、高校生に指導する機会がある。朝食を食べていない生徒が3割程度おり、減塩よりも健全な食生活の実践と朝食をきちんと食べることの重要性を感じている。
- ・ 新潟市内で就労・就学している人の中には市外の人にも含まれる。高校生を対象としたアンケート調査などの実施予定はあるか。
- ・ クリニックで外来の食事指導を行っている。40歳代・50歳代の女性の野菜摂取量が少ないように感じる。カット野菜を購入するなど、経済面を考え無駄にしないという意識が優位に働いているようだ。共働きの家庭に特に多く、そういう方はコレステロール値が高い傾向にあるようだ。
- ・ 一度意思が低下するという点にも対処が必要。
- ・ 農家なので少しでもおいしい野菜を届けたいという思いでいる。食育というと難しく感じられるが、家族などで一緒にごはんを食べることでおいしいという価値観を共有したり、手料理を囲んだりという機会が増えていけばよい。
- ・ 関心があるけどできない、わかっているけどできないという人に向けて対応策を検討したほうがよい。料理を作るにしても簡単などころから入るということも必要。
- ・ 肥満・やせの割合についてはどのようなデータを基にしているか。実測によるものがあるか。
- ・ 特定健診を受けていない人が多い。もっと広い範囲を対象と捉えていくべき。
- ・ 特定健診については市で実施しているものだけではなく、事業所との連携も踏まえ、対策を考えていく必要がある。
- ・ 次期計画の目標数値指標には経済効果の観点の指標も入れてほしい。
- ・ 平成18年度の計画開始から既に10年近くが経過し、その間に食育や農業体験をした子どもがどうなっているのか興味深い。今後は追跡調査ができないか検討してほしい。

- ・ 国の検討状況を見ると学校への意見が多い。子どもの朝食の欠食については、食べたくても用意されていないというのは実際にあることであるが、学校だけでは対応が難しい問題である。そういったところも今後の取組の視点としてほしい。
- ・ JAの立場から、食・農・教育というトライアングルで取組を行ってきたが、そこに学びが加わることでどのように変化があるか興味深い。大学生などに向けて有効ではないか。
- ・ 市の取組はいろいろな課が、それぞれの立場でたくさんのことを行っている。今後は、点での取組ではなく線にしていくことが実践を促す点で必要ではないか。それが連携や協働というところにもつながってくると思う。
- ・ 農業体験はこれまで単発の作業であることがほとんどだったが、生産の過程を重視し、一連の管理作業等も含め、食べ物の大切さを知ってもらうことにつなげている。
- ・ 子どもの朝食の欠食について、ゼロというとながしいが、ほぼ全員が食べているという状況なので、バランスのとれた食事をしようということ指導の中心としている。今後はゼロを目指すということよりも、食事の内容に目を向けてほしい。
- ・ 新潟市は田園都市であり食材の宝庫である。小さい頃からの体験で、大人になってからも健全な食生活が実践されるとよい。
- ・ ライフステージや家族形態に応じた施策展開の必要性が示されているが、高齢者に対する取組や指標は少ないと感じている。独居老人や老老介護といったことも社会問題となっているので、そういったところにも目を向けてほしい。
- ・ キッズキッチンの講師を務めているが、結果が出ている子どもだけではなく、親の参加も含めた取組も行っている。子どもを通じた大人への波及効果は大きいと実感している。
- ・ 小・中学校、地域への食育マスターとしての派遣要請も増えている、食育は生涯学習という感覚が広がっているのではないかと感じている。
- ・ 新潟市は意識や背景が多様で、地域的な特性もあると感じている。そういったところも踏まえて次期計画の作成をしてほしい。

会議資料

- 次第
- 新潟市食育推進会議委員名簿
- 座席表
- 資料1-1 第2次新潟市食育推進計画（平成24年度～平成28年度）数値指標一覧
- 資料1-2 平成26年度食育推進施策実施状況報告書（未定稿）
- 資料2-1 第3次食育推進基本計画の方向性（主な論点）（案）
- 資料2-2 第3次食育推進基本計画に関する食育推進評価専門委員会（第4期第2回及び第3回）の主な意見

- 資料 2 - 3 第 3 次食育推進基本計画における重点課題の方向 (案)
- 資料 2 - 4 食育の全体像と第 3 次食育推進基本計画の重点課題の整理 (案)
- 資料 2 - 5 「第 3 食育推進基本計画」今後の検討スケジュール (案)
- 資料 2 - 6 第 3 次新潟市食育推進計画の策定スケジュール
- 座席表
- 座席表
- 座席表
- 座席表
- 座席表

- 事前送付資料
- 当日配布資料

次回開催

- 日 時：平成 28 年 3 月 (予定)
- 場 所：未定

※ 詳細については、後日、改めて掲載いたします。